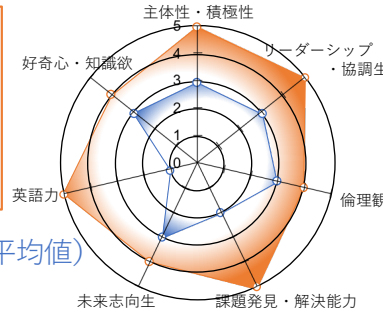


地域社会を牽引するグローバルリーダー育成プログラム

<事業が目標とする人材像>

機構本部国際交流センター作成自己評価チャートを用いて、津山高専が育成を目指すグローバルエンジニア像を示す。低学年向け事業と連携して、7年間の育成プログラムを構築して目標を達成する。



青色：現状（本科4年生3名海外インターンシップ前平均値）

赤色：本事業が目標とする人材像（本科卒業時）

<課題>

- 課題①：高学年向けの事業へ挑戦する学生数が伸び悩んでいる
- 課題②：国際交流事業が個人または派遣イベントで閉じている

- ・英語力向上による海外渡航への不安解消
- ・海外インターンシップ、海外留学を授業科目に接続して魅力の増進
- ・英語ベースのワークショップによる英語を使う場の設定

<取り組みの目的と内容>

- 専門科目の英語による授業と Bilingual Class の実施
- Global PBLによる課題発見と解決を多国籍チームで実施
- 海外協定校と連携したカリキュラム構築

専門科目の英語講義, Bilingual class実施：基盤となる英語力向上

- 1.海外インターンシップへ派遣
- 2.目的意識の明確化：課題を発見する
- 3.全系横断演習, 地域連携演習
・専攻科1年生, 4年生, 3年生
- 4.課題解決に向けた協働作業
・短期留学生の参加
・英語リーダーミーティング
・英語によるグループディスカッション
- 5.企業へのフィードバック
・社会実装による評価

- 1.海外協定校への短期海外留学
・留学先で講義を受講
- 2.派遣先機関による評価
- 3.本校の科目で認定
・シナジー・ゼミナールⅠ
・シナジー・ゼミナールⅡ
・国際コミュニケーション演習

得られる成果

- ・英語コミュニケーション力
- ・課題発見・課題解決能力
- ・リーダーシップ・協調性

<外国人教員の必要性と役割>

- ・英語での授業実施準備WGメンバーとして、専門教員の英語授業実施を支援し、そのノウハウを現職外国人英語教員から継承する
- ・全てのクラスで週2時間の英語による専門科目授業
- ・Global PBLでの週1回グループリーダー英語ミーティングを開催

<成果指標>

	H30	H31	R01	R02	R03	R04
1 TOEIC score (5th)	301	320	350	400	450	500
1-2 TOEIC score (Ad 2nd)		350	380	410	550	600
2 海外インターンシップ Global PBL件数	5	6	10	13	17	20
3 GPBL後自己評価 (Max5)	3.7	3.8	4.3	4.4	4.5	4.6
4 教育目標自己評価(Max125)	27	58	64	80	100	125

<完成状態の教育プログラムの全体像 ()内数字は単位数>

